

## 平成24年度全国学力・学習状況調査（徳島県の状況）

## 1 調査概要

実施日 平成24年4月17日（火）  
 調査対象 小学校第6学年児童，中学校第3学年生徒  
 調査方法 全国的な抽出調査  
 抽出状況 小学校79校（41.6%），中学校61校（70.9%）  
 調査人数 小学生 約2,600人，中学生 約4,600人

## 2 平均正答数

小学校（第6学年）						
教科 （問題数）	国語		算数		理科	
	A(17)	B(11)	A(19)	B(13)	A(7)	B(17)
徳島県(公立)	14.1	6.1	14.0	7.5	4.7	9.5
全国(公立)	13.9	6.1	13.9	7.7	4.8	9.8

中学校（第3学年）						
教科 （問題数）	国語		数学		理科	
	A(32)	B(9)	A(36)	B(15)	A(10)	B(16)
徳島県(公立)	23.9	5.5	22.7	7.1	5.8	7.5
全国(公立)	24.0	5.7	22.4	7.4	5.7	7.6

## 3 各教科の状況 ○……成果 ▼……課題

## (1) 小学校

## 【国語】

- 「知識」において，全ての領域で正答率が全国平均を上回った。
- ▼「活用」において，目的に応じて複数の記事の特徴を捉えたり，書き手の意図を捉えたりすることに課題がある。

## 【算数】

- 「知識」において，「図形」，「数量関係」の領域が全国平均を上回った。
- ▼「活用」において，「数と計算」の領域は僅差であったが，全ての領域で全国平均を下回った。

## 【理科】

- 「知識」において，「地球」の領域が全国平均を上回り，無解答率は全国平均より低かった。
- ▼「活用」において，学習した内容を基にしながら，日常生活に適用して考察することに課題がある。

## (2) 中学校

### 【国語】

- 「知識」において、漢字や適切な語句を選ぶ問題、手紙の書き方、文学的文章の表現や読み取った内容を書き抜くなど、問われている知識を答える問題で全国平均を上回った。
- ▽「活用」において、まとまった文章を読み、文章の内容を踏まえて自分の考えを書いたり、根拠を明らかにして自分の考えを説明したりすることに課題がある。

### 【数学】

- 「知識」において、「数と式」、「数量関係」の領域で全国平均を上回った。  
また、この学年が実施した平成21年度小学校6年生での調査では「数量関係」において全国平均より下回っていたが、中学校3年生では上回った。
- ▽「活用」において、無解答率が高く、全ての領域で全国平均を下回っており、記述・説明することに課題がある。

### 【理科】

- 「知識」において、「地学的領域」で全国平均を上回った。
- ▽「活用」において、科学的な知識や概念と根拠を踏まえ、論理的に説明することに課題がある。

## 4 児童質問紙・生徒質問紙の状況 ※〔 〕は質問番号

### ○全国平均と比較して「良好な状況にある」項目(例)

#### (1) 小中共通

- 宿題や授業の復習など、家庭学習の習慣〔24, 26〕
- 算数・数学の授業において、解き方や考え方がわかるようノートを書く〔65〕

#### (2) 小学校

- 学校のきまりを守る〔32〕
- グループで調べる活動をよく行う〔40〕

#### (3) 中学校

- 将来の夢や目標を持っている〔6〕
- 平日や休日の勉強時間が多く、自分で計画を立てて勉強する〔14, 15, 23〕
- 将来、理科や科学技術に関する職業に就きたい〔74〕

### ▽全国平均と比較して「課題がみられる」項目(例)

#### (1) 小中共通

- ▽学校図書館・室、地域の図書館の利用や読書時間〔17, 18〕
- ▽家庭での会話や手伝いなどコミュニケーション〔20, 21〕
- ▽今住んでいる地域の行事に参加している〔29〕

#### (2) 小学校

- ▽将来の夢や目標を持っている〔6〕
- ▽自分で計画を立てて勉強する〔23〕
- ▽新聞やテレビのニュースなどに関心がある〔28〕

(3) 中学校

- ▽自分にはよいところがある [5]
- ▽グループで調べる活動をよく行う [40]
- ▽普段の授業で自分の考えを発表する機会や生徒間で話し合う活動 [41, 42]

5 学校質問紙の状況 ※ [ ] は質問番号 (下線部分は, 小, 中 を表す)

○全国平均と比較して「良好な状況にある」項目 (例)

(1) 小中共通

- 国語の授業における普通教室でのインターネットを活用した授業 [32]
- 学校ホームページによる情報公開 [87]
- 教職員が研修や研究会に参加し, その成果を教育活動に積極的に反映 [96, 93]

(2) 小学校

- 放課後を利用した補充的な学習サポートの実施 [19]
- 資料を使って, 調べ方を身に付けさせ発表ができるような指導 [28, 29]
- 書く習慣・様々な文章を読む習慣を付ける指導 [50, 51]
- 保育所・幼稚園との連携 [67]

(3) 中学校

- 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 [24]
- 学習規律の維持を徹底 [25]

▽全国平均と比較して「課題がみられる」項目 (例)

(1) 小中共通

- ▽「朝の読書」などの一斉読書を行う [17]
- ▽長期休業日を利用した補充的な学習サポート [21]
- ▽理科の指導として, 実生活における事象との関連を図った授業 [59]
- ▽理科の指導として, 観察や実験に関する指導 [61, 62, 63]
- ▽理科の指導として, 観察や実験の回数 [65, 64]
- ▽中学校との連携・小学校との連携 [68]
- ▽模擬授業や事例研究など実践的な研修 [93, 90]
- ▽校長による校内の授業の見回り [99, 96]

(2) 小学校

- ▽理科の指導として, 児童が科学的な体験や自然体験をする授業 [60]

(3) 中学校

- ▽生徒の様々な考えを引き出したり, 思考を深めたりするような発問や指導 [22]
- ▽生徒の発言や活動の時間を確保した授業 [23]
- ▽資料を使って, 調べ方を身に付けさせ発表ができるような指導 [28, 29]
- ▽生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 [30]
- ▽平成23年度全国学力・学習状況調査を利用した具体的な教育指導の改善, 学校全体で教育活動の改善 [37, 38]
- ▽平成23年度全国学力・学習状況調査や独自調査の問題冊子・結果等を保護者や地域の人たちに公表・説明, 結果等を踏まえた取組の働きかけ [39, 40]

## 6 今後の対応

(1) 各市町村教育委員会教育長に、本調査からみられる県全体の状況を説明し、学校が9月から課題改善に向けて取り組めるよう、所管学校への指導・助言を依頼する。

① 訪問期日等

8月下旬 ※学校政策課学力向上推進室 指導主事2名が訪問

② 説明・依頼内容

ア 県全体の状況

イ 課題改善に向けた今後の具体的な対策

◎各校における「学力向上検討委員会」、「校内研修会」の開催

・本調査結果の周知及び考察

・自校の課題把握及び9月からの取組（授業改善のポイント(別紙)を視点に)

・学力ステップアップテストも含めたPDCAによる取組

◎家庭・地域との連携

(2) 小学校長会役員連絡協議会(8/29)、中学校長会役員連絡協議会(9/4)において、県全体の状況を説明し、課題改善に向けた今後の取組について助言する。

(3) 総合教育センターのホームページに、本調査の分析結果及び授業改善のポイントを掲載し、授業改善の促進を図る。

(4) 学校計画訪問等において、全体会では授業改善のポイントを全ての教職員に周知し、全ての教科において課題改善を図ることの必要性を周知する。併せて、授業研究会では、授業改善のポイントに視点を当てた指導・助言を行う。

(5) 9月以降に実施される各種研修会において、授業改善のポイントに視点を当てた具体的な取組に関する内容を加える。

(6) 徳島県学校改善支援プランに基づく取組等の成果と課題を検証するため、新たに、「徳島県学校マネジメント・学力向上戦略会議」を開催し、「徳島県学校マネジメント・学力向上実行プラン(仮称)」を策定する。

(7) 広報誌「ふれあいひろば」に本調査結果に関する記事を掲載し、家庭・地域に情報提供を行うとともに、学校教育への協力を呼びかける。

(8) 第2回学力向上推進員研修会の研修内容等を充実させる。

① 本調査の問題内容と解答状況に関する詳細な分析と併せて、学力ステップアップテストの結果を説明し、課題解決に向けた具体的な方策等について指導する。

② 学力向上のための指導資料集(平成24年度版)をCDにして配付し、各校における効果的な活用を図る。

③ 国立教育政策研究所ホームページに掲載されている「平成24年度全国学力・学習状況調査の調査問題を踏まえた授業アイデア例」等の活用を促し、各校における指導方法の改善・充実を図る。

## 学力向上を目指した「授業改善のポイント」

徳島県教育委員会

### 小学校

#### 【国語】

- 読書量を増やし、目的に応じて多読、摘読などの効果的な読み方を選択活用し、多様な読みの力を育成する。また、読んだことを基に自分の考えを明確にし、交流する場を設定することで、考えを深めたり広めたりする学習活動を取り入れる。
- 書く機会を増やすとともに、複数の資料を関係付けて読み、目的に応じて必要なものを取り出したり、共通点や相違点を整理したりして書く活動を充実させる。

#### 【算数】

- 基準量を求めるために比較量を割合で割ることを理解させる手立てとして、わからない数を□に置き換えて、 $\square \times 0.6 = 120$ とし、 $\square = 120 \div 0.6$ と除法の式に表すことが考えられる。  
また、数直線の活用の徹底を図る必要がある。数直線の指導は、整数のかけ算・わり算の段階から機会を捉えて指導を繰り返し行う。
- 図形の求積の際に、情報過多の中で必要な辺の長さを読み取る活動を取り入れる。

#### 【理科】

- 単に名称のみを記憶させるのではなく、名称をその様子を観察した事実から捉えさせたり、科学的な言葉や概念を適切に使用し、考察させたりする活動を充実させる。
- 観察・実験の前に予想や仮説を立て、観察・実験の途中で予想や仮説を確認させたり、体感を通して調べることと、実験器具を用いて測定し定量化することを関連させながら比較させたりする活動を充実させる。
- 日常生活における場面を想起させ、現象を確認させたり、日常生活に見られる現象を学習内容と関連させ考察する学習活動を充実させる。

## 中学校

### 【国語】

- 目的を明確にし、課題意識をもってさまざまな文章や資料を読む機会を充実させる。その際、複数のものを比較し共通点や相違点を整理したり、多様な情報から必要なものを選択し、伝えたい事柄を明確にして紹介したりするなどの学習活動を取り入れる。
- 書く機会を増やす。相手や目的に応じて構成や記述を工夫したり、自分の体験などに基づいた具体例を挙げて自分の考えを分かりやすく書かせたりする。

### 【数学】

- ただ単に問題を解くことができればいい、値を求めることができればいいという考え方ではなく、導く過程や考え方を相手に伝えるという内容の授業を多く取り入れていく。
- 物事を数・量・図形などに着目して観察し的確にとらえることができるように、日常的な事象等を数学化するような数学的な活動の充実を図る。

### 【理科】

- 観察・実験を通して生徒が自ら課題を見だし、目的意識をもって探究的に観察・実験を行う活動を充実させる。
- 他者の考えを検討し改善するために、科学的な知識や概念に基づいて自分の考えを説明し、実験の考察を検討する場面などを設定する。
- 日常生活や社会において、理科で学習した知識・技能を活用できるような場面を設定し、考察する活動を充実させる。

### ★全ての学年及び教科に共通する授業改善のポイント

- 多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定するとともに、相手や目的に応じて説明する活動や、児童生徒が表現することに必然性を感じる活動を系統的に取り入れる。
- 児童生徒の伝え合いの場を積極的に設け、伝えたいことを整理することや、自分の考えの根拠を明確にしながらかいたり話したりすること、また、話の中心や話し手の意図を捉えながら聞き、適切に質問することを、繰り返し指導する。
- 作業や体験をとおして実感を伴って理解を深めることができる活動を積極的に取り入れる。